

元気のヒケツは

矢板市文化財愛護協会に所属し、郷土史に詳しく「歩き・み・ふれる歴史の道」の解説責任者や「矢板の伝説」の再編集を行った、矢板市シルバー人材センターの理事で、「いきがい」の編集委員など、元気に活躍している、白石哲夫さんに、その秘訣を伺った。

◆郷土史との関わりは

市役所に入ったばかりの二十歳頃から、近所の郷土史の大家である記憶力抜群の伴内万寿さん(故人)に休日の度に教えてもらい、その後、渡辺久作先生、坂主政夫さん、兼崎才助先生(いずれも故人)に教わったことをベースにして自分の研究も続け今の自分があります。

◆矢板市文化財愛護協会の活動は

昨年は、「歩き・み・ふれる歴史の道」を年二回、川崎城跡公園や御前原公園、堀越遺跡の草刈り、夏休み体験教室、文化財や遺跡巡り研修、あんどんまつり、歴史講演会、会報ふるさと矢板の発行(一回分)です。青少年に矢板市の素晴らしい歴史を学んで、その良

元気のヒケツは山歩き 平野 白石哲夫さん(66歳)



◆尾瀬に百回
四十年かかって、七月十三日に燧ヶ岳登頂で百回を達成しました。最初の二十年は三十回しか行けません。

◆障害者支援のボランティア
矢板岳友会がたかはら学園から頼まれ、もう六年ほどになります。私も岳友会のOBとしてお手伝いしています。子どもたちと顔見知りになってるので、毎年楽しくハイキングや登山をしています。

さを認識してもらい、自分たちの住んでいる矢板に誇りが持てる、出身地を聞かれたら「矢板市です」と胸を張って答えられる市民、特に若者を増やしていきたいものです。

したが、現在の遠藤市長が教育長のとき、ちょうど三十回目だったのをきっかけに、このとき百回を目標としました。

◆元気の原動力は

山歩きでしょうか。週一回ぐらいいは山登りしないと体力が衰え、きつくなりますね。それと矢板市の歴史探訪に夢中になっていることも。

「矢板の伝説」の本を子ども達に親しまれるように、語り部の人たちの協力を得て再編集し、この七月には原稿が完成する予定です。

※その他、著書として「年六〇七回登る山」「平野焼の一考察」があり、「日光北街道を往く」「会津中街道の旅」「平野の歴史散歩」を冊子にまとめ、「矢板の地名の由来」も近いうちに完成する予定です。
(T・H)

はつらつ館を利用しよう

高齢者の相互の触れ合いと地域の子どもの交流を含めた生きがい活動を通し、保健福祉の充実を図る目的で、できた「はつらつ館」
矢板市には二つあり、今回は木幡北山はつらつ館を紹介いたします。

●はつらつ館ってどんなところ？

おおむね六十五才以上の矢板市民が利用できま



現在、ハワイアンダンス、日舞、詩吟、詩舞、コカリテ、卓球、かぎ編み、絵手紙等を楽しみ、利用者が利用しています。

●新しいスポーツ卓球バレーをこ存知ですか？
北山はつらつ館で、今一番力を入れているのが卓球バレーの普及です。

椅子に腰かけての競技なので、高齢者の方や子どもなど足腰が弱い人でも大丈夫です。

●畑仕事もできます
スーパーオータニの西側、県営住宅に隣接している北山はつらつ館のすぐ近くに「いきがいクラブ農園」と名付けた貸畑があり、はつらつ館を利用する人たちが借りているいろいろな作物を栽培しています。

この畑で取れた野菜や、地域の農家から分けていただいた野菜を、毎年八月の「いきがいクラブ祭り」の時に地域の方々に格安で販売したり、子どもたちのために無料でお分けすることが出来ます。今年も、

八月三日(日)に実施予定です。
●高齢になってからはつらつと生きるために
高齢になっても、元気に、はつらつと過ごすためには、「きょうよう」と「きょういく」が欠かせないと言います。(今日、用事がある。今日、行くところがある)
その、受け皿の一つが「はつらつ館」です。

少し離れた地区に住んでいる方もちょっと足を伸ばし、いろいろな行事に参加して、知り合いを広げ、子どもたちとの交流を深めてみてはいかがでしょうか。
行事に参加しなくても、おしゃべりだけでもできますので、お気軽にお問い合わせください。



(K・H)